

淫魔也

聖女

18  
FOR ADULT ONLY  
お禁内容

魔族…ですか？

ええ  
被害はないのですが  
それらしき者を見かけたという  
報告が後を絶たず

差し出がましい  
ですが

巡礼は山を迂回  
されたほうが  
よろしいかと…

…お水  
ありがとうございます

魔族の脅威が  
身近に迫るとあっては  
村の皆様も  
不安なことでしょう

私が追ひ払って  
みせます！

しかし  
危険では…っ

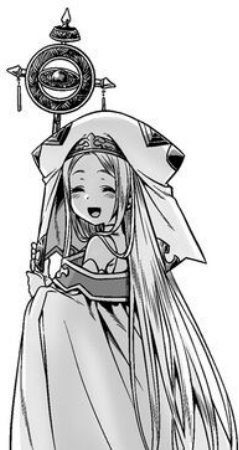
ご心配

どうも  
ありがとうございます

でもこれも  
私の務めですから  
大丈夫…

聖女

ですから



光よ!!!

へえ……  
思ってたよりも  
やるじゃない

凄まじい法力！  
百年に一人の聖女という  
噂もとうやら本当かしら

……でもない  
まともにやり合ったら  
消されかねないわね

魔の眷属とはいえ  
命まで取りたく  
ありません

羽根が常に  
揺らいで見える……  
空間に干渉できるほどの  
力を持った魔族……

この地を  
去りなさい

仕方ありません……

藏わせてもらいます

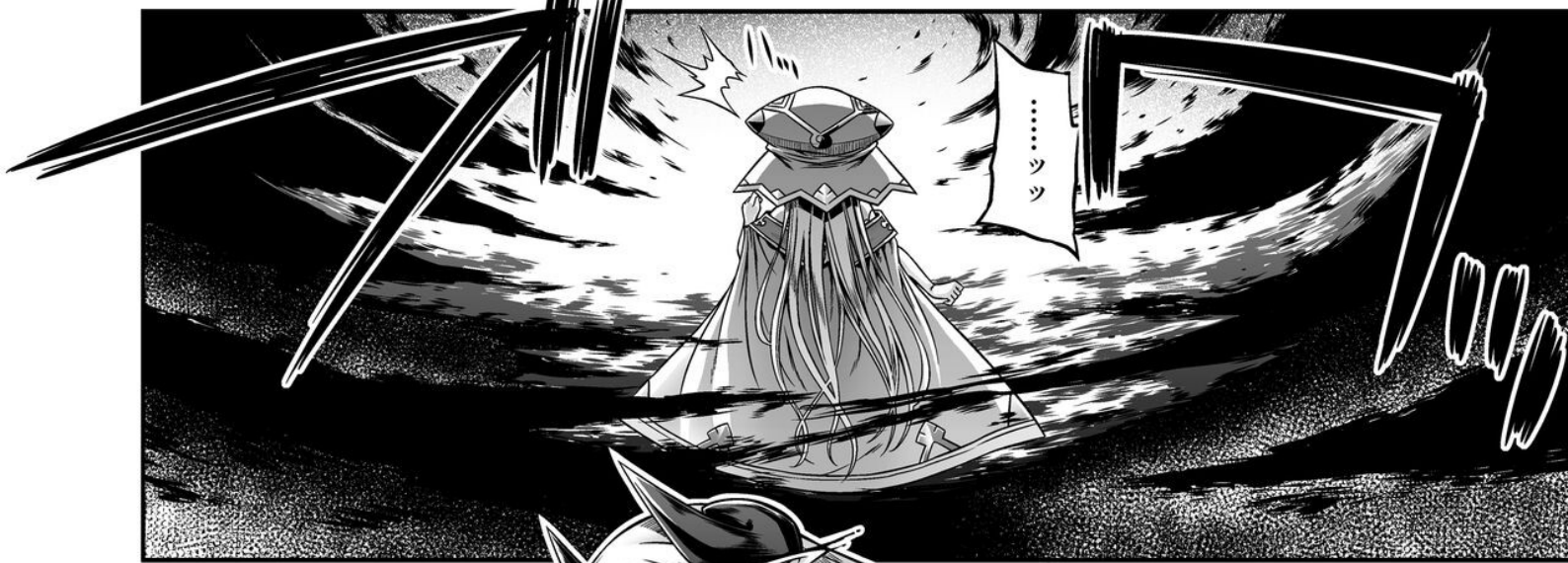
あらあら  
見逃して  
くれるの？  
優しいのね

でもこのまま  
眠りはわって  
しまうのは  
貴女の方かしらね

いと高き天の頂に座す  
創生の女神よ

我に魔を討ち破る力を  
与えたまえ





あらあら大変  
大切な聖杖が  
壊れ  
ちゃったわ

力を入れ  
過ぎたかしら

これ  
触媒なしで  
私と戦える？  
大丈夫？

はっ放しなさいっ  
放して…！

うふふふ離れたければ  
力ずくで引き剥がして  
御覧なさい  
無理でしょうけれど

何十人という男達に  
想像の中で慰み者に  
されていると  
いうのに…

貴女だってこんな薄布一枚の  
ふしだらな格好をして  
いるんですもの  
誘っていたんでしょ？

これは神殿で  
清められた衣です

ふざけたことを  
言わないで…っ

自分で気づいて  
なかったの？  
まだまだおぼこね

ふふっ  
穢れを  
知らないのね

そんなだから  
差し出されたものを  
簡単に口にして  
しまうのよ例えば

私の体液を  
混ぜておいた  
井戸水とか…♡

……！  
村で目撃されて  
いたのにも  
そのために…

まっさかあ  
見つかるようなドジ  
踏むわけないじゃない  
あなたをおびき出す  
ためのわざとよ

狙いは最初から  
ア・ナ・タ  
なんですもの♡

……っ

# 浄化

ピュリフィケーション



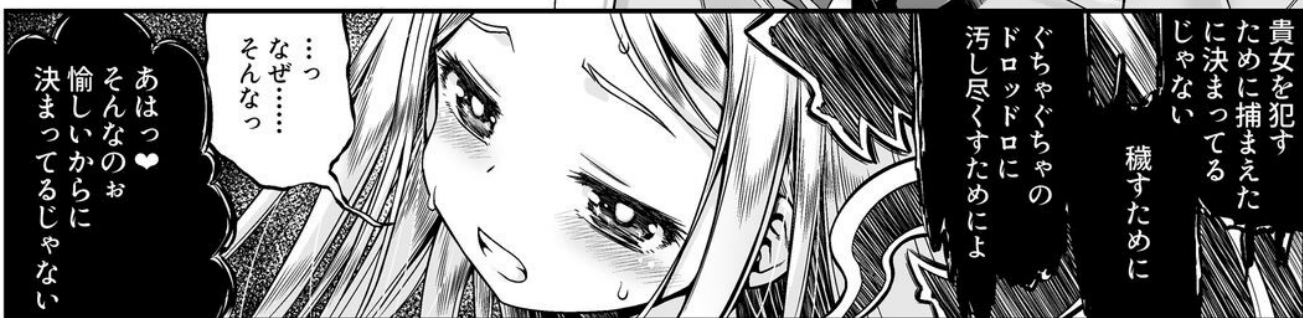
あら凄  
一瞬で浄化  
したわね

よほど女神に  
愛されてるのね  
墮としいが  
あるわあ♡



私が狙いなのに  
捕らえても  
すぐに殺そうと  
しないで  
どういう  
つもりです!

まだどんな目に  
遭わされるのか  
察せないのお?  
やっぱりおほこね  
私は淫魔なのよ?



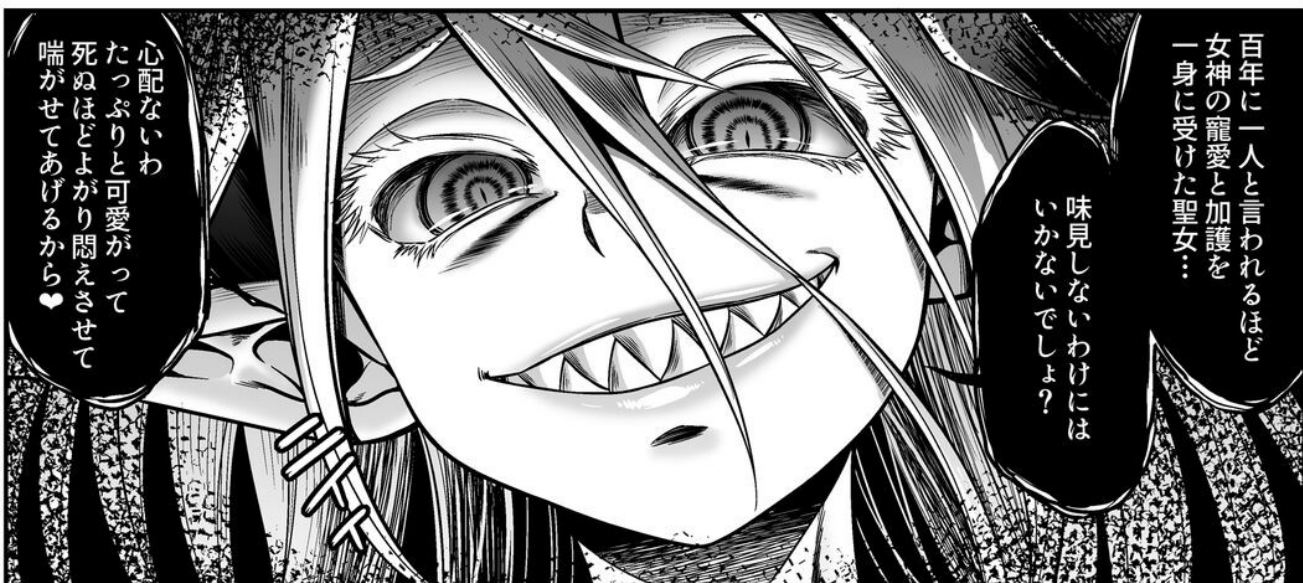
貴女を犯す  
ために捕まえた  
に決まってる  
じゃない

穢すために

ぐちゃぐちゃの  
ドロドロに  
汚し尽くすためによ

…っ  
なぜ…  
そんなっ

あはっ♡  
そんなのお  
愉しいからに  
決まってるじゃない



百年に一人と言われるほど  
女神の寵愛と加護を  
一身に受けた聖女:

味見しないわけには  
いかないでしょ?

心配ないわ  
たっぷりと可愛がって  
死ぬほどよがり悶えさせて  
喘がせてあげるから♡



無駄  
……です

ん?

無駄です……!

戦う力は  
封じられても  
私は女神様の加護に  
護られています

あなたの術は  
私には効きません

ん？ダメダメ♡

今は  
世界がどうだとか  
そんな高尚なお話は  
していないのよ？

しかし殺すだけなら  
容易でしょう  
おやりなさい

ですが覚えておくことで  
いづれ忌むべき闇は払われ  
女神様の光で世界は  
満たされるでしょう

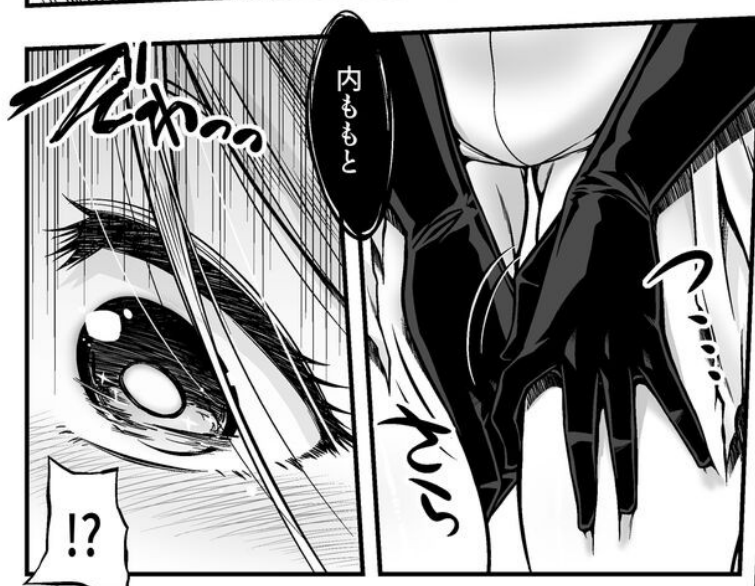
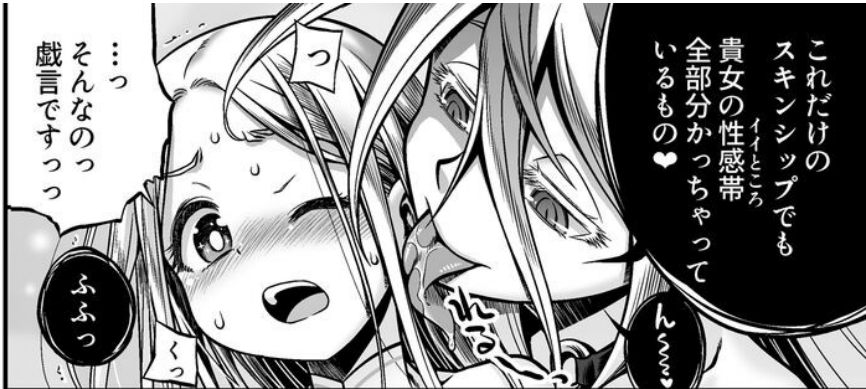
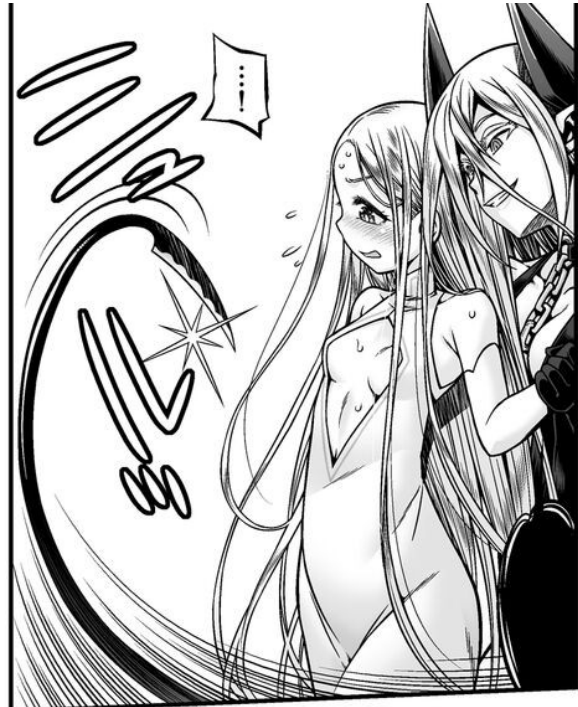
とぉろつても

ま  
確かに女神の加護に  
護られている限り  
私の術は届かない  
でしょうね

でもこうして  
触れることが  
できるだけで十分

貴女みたいな  
小娘を墮とす  
ことなんて

かあんたん♡











だめ……だめっ

とめられ……な

あ……っ

あ……っ

ちゅ……っ

ふふっ

腰跳ね  
ちゅってる  
わよっ

かわいい♡



どーお？  
とつても  
気持ちよかった  
でしょう？

まだ  
震えてる♡

達したのは  
初めて？

汚れをひとつ  
知ってしまったわね♡

達した……？  
今の……？  
私……なんっ

うそ……だ……

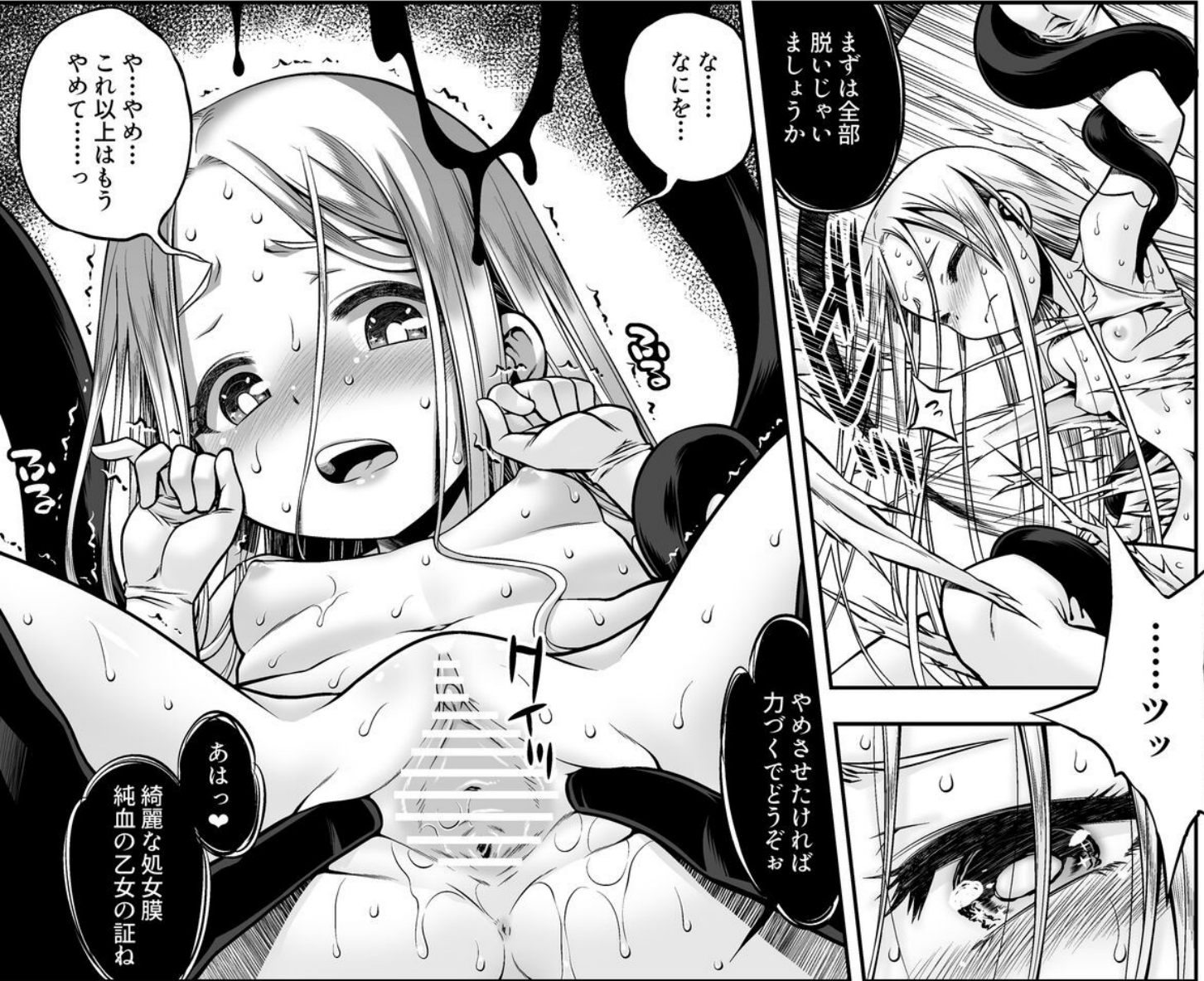
う……そ……

魔族に弄ばれて……



うふふ  
どちらが本当のことを  
言っているのかくらい  
自分で分かっている  
らんでしょう？

認められないと  
いうなら  
見せてあげるわ  
貴女の穢れの証拠



まずは全部  
脱いじゃい  
ましようか

な……  
なにを……

や……やめ……  
これ以上はもう  
やめて……っ

やめさせなければ  
力づくでどうぞお

……  
ツツ

あはっ♡

綺麗な処女膜  
純血の乙女の証ね



破れるか  
試して  
みましょうか

私の術が  
通ったら  
儲けものだしね

なんて魔力……

め……っ  
女神様……！

どうか  
ご加護を……！

いくわよ



出たわね



ああ…  
女神様…っ！

女神様が  
お護りくださっている

ふふ…  
ホツとしてる  
みたいだけれど…



もっと  
よく見たほうが  
いいんじゃない  
かいから



女神の加護



羽根が少し  
欠けているわね

穢れのせいよ



貴女が穢れを  
識れば識るほど  
その羽根は  
欠けていく……

あとどれくらいで  
全部筆れるか楽しみね



いい  
でしよう？  
ここ……

ふっ

女の子の  
一番敏感な  
ところよ

あら  
中で硬くなって  
きているわね

強がりはお  
ためよお  
虐めたく  
なっちゃう

そんなにいいの？

よ……っ  
よく……なんて……  
ありません……っ！

優しく  
ほじくり出して  
あげる

うう……っ  
ひっ

や……っあっ

はあ……っ

ひ……っ

っ  
っ  
っ

っ  
っ  
っ

美味しいわよ  
貴女のエッチな  
お汁……♡

それ以上……  
揺さぶりを  
かけても  
無駄……です

あなたの狙いが  
分かった以上……  
私は……今度こそ  
耐えて……みせます

あらあ  
まだそんなこと  
できるつもりで  
いたのお？

ちよつと責めが  
ヌルすぎたかしら？  
ごめんなさいね

それじゃ  
ちよつとだけ  
本気出して

あ・げ・る

これでね♡

いただきます

あはっ

あはっ

あははっ 潮を  
吹いちゃったわね  
そろそろ 限界  
かしら

ほらほら  
食べられちゃう  
わよ……

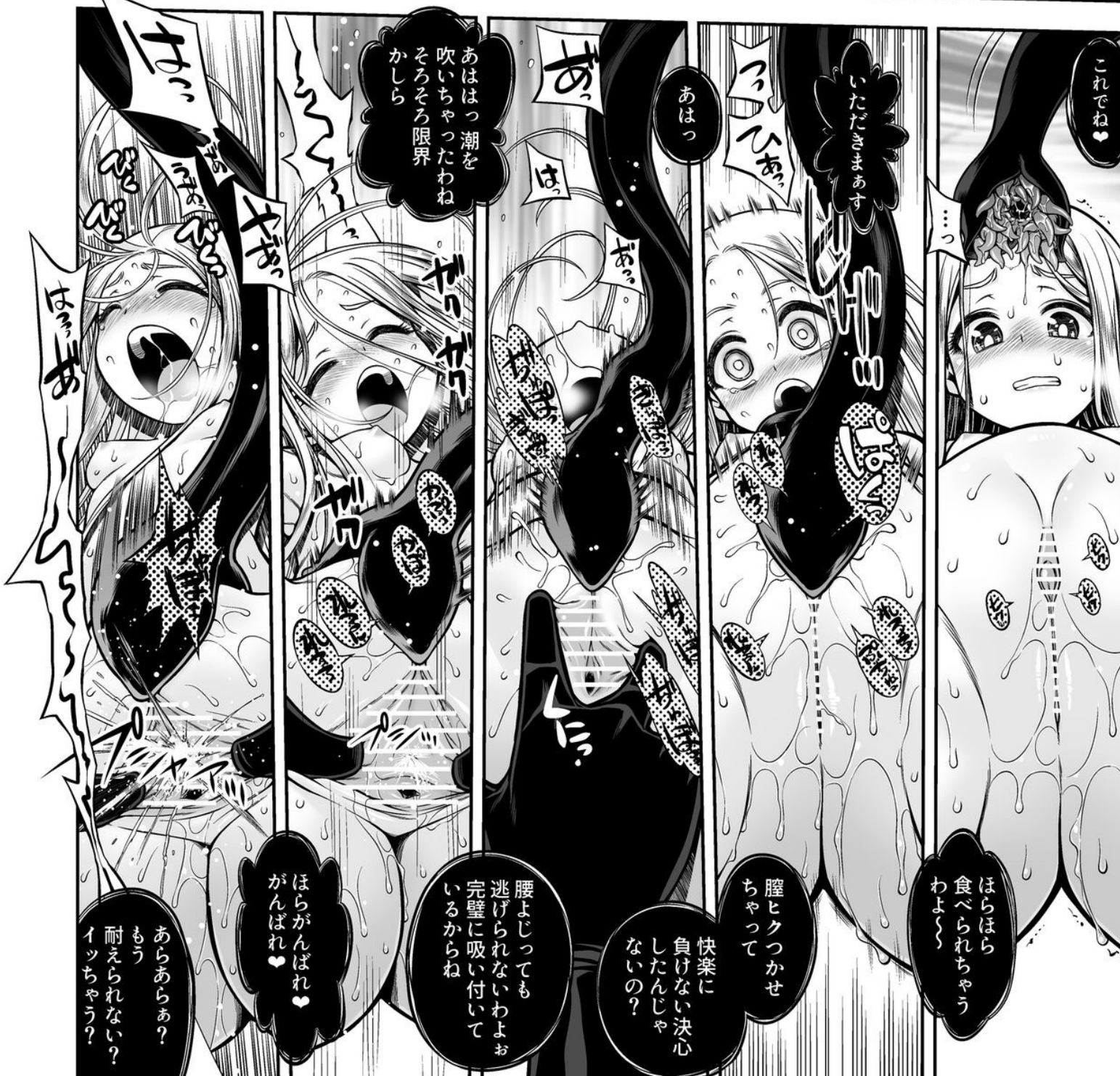
膣ヒクつかせ  
ちやつて

快楽に  
負けない決心  
したんじゃ  
ないの？

腰よじっても  
逃げられないわよお  
完璧に吸い付いて  
いるからね

ほらがんばれ  
がんばれ♡

あらあらあ？  
もう  
耐えられない？  
イツチャウ？





でも  
リクエスト  
もらっちゃったし  
早く終わるように  
ペース上げてあげる



あははっ  
もう全然  
堪えてない  
じゃない

こんな敏感な  
身体を抱えて  
禁欲生活してたなんて  
大変だったでしょう

はっ  
今までの分  
取り戻さな  
くっちゃね

このまま  
百回くらい  
イッちゃい  
ましょっか



目障りな  
女神の加護も  
すっかり  
ポロポロだし



もう拘束の  
必要も  
なびそう

あは…♡  
すっかり  
腰砕けね

これなら…



処女膜ごと  
簡単に  
破れちゃいそう…♡



あ…

うあ…

このやわ肉に  
潜り込むのが  
愉しみだ  
わあ……♡

さあ：記念すべき  
聖女様の破瓜の瞬間ね

ご自慢の加護で  
抵抗してくれども  
このよ

やめ……

やめ……て……

うう……

めが……み  
さま……

ご加護……を……

どうか……

女神……  
さま……

め

が

み

の

ま……あ

あ

あ……

あ……



とっても  
気に入っちゃった♡

貴女の腰キツキツなのに  
中は熱くねっとり  
絡みついできて  
すごくいいわよお

うう……  
女神さま……

ぐすっ  
ぐすっ  
ぐすっ  
ぐすっ



泣いている場合は  
ないわよ？

!?

じい

私の体液が  
どんどん膣に  
入っちゃってるわ♡



ほらほら

あ……  
じよ……

浄……化……を……



あはっ  
女神の加護が砕けちゃった♡  
ほら見てずっぱり  
入っちゃったわね

う……

う……

そんな……

そんな……

めが……み……  
さま……っ

私……穢され……

う……



あ……

うふふっ  
そうそう

麗の村で  
口にしたものとは  
わけが違う  
希釈されてない  
淫魔の体液を  
粘膜で直だから

しゅっ...

めっ...

そうして必死に  
浄化し続けないと

あつという間に  
媚毒が回っちゃうわ  
よ.....っつと

キョウ

めっ

まあ  
何度浄化しても  
いくらでも  
分泌して  
あげるし

おちんちんが  
擦れる感触は  
浄化したところで  
無くなりはない  
けど.....ね

うっ

うう...う

こっち  
お尻にも  
あげるっ

くすっ

うづづ...

うぐ...う

はあっ

ふっ

ガキはあ

はぐ...う

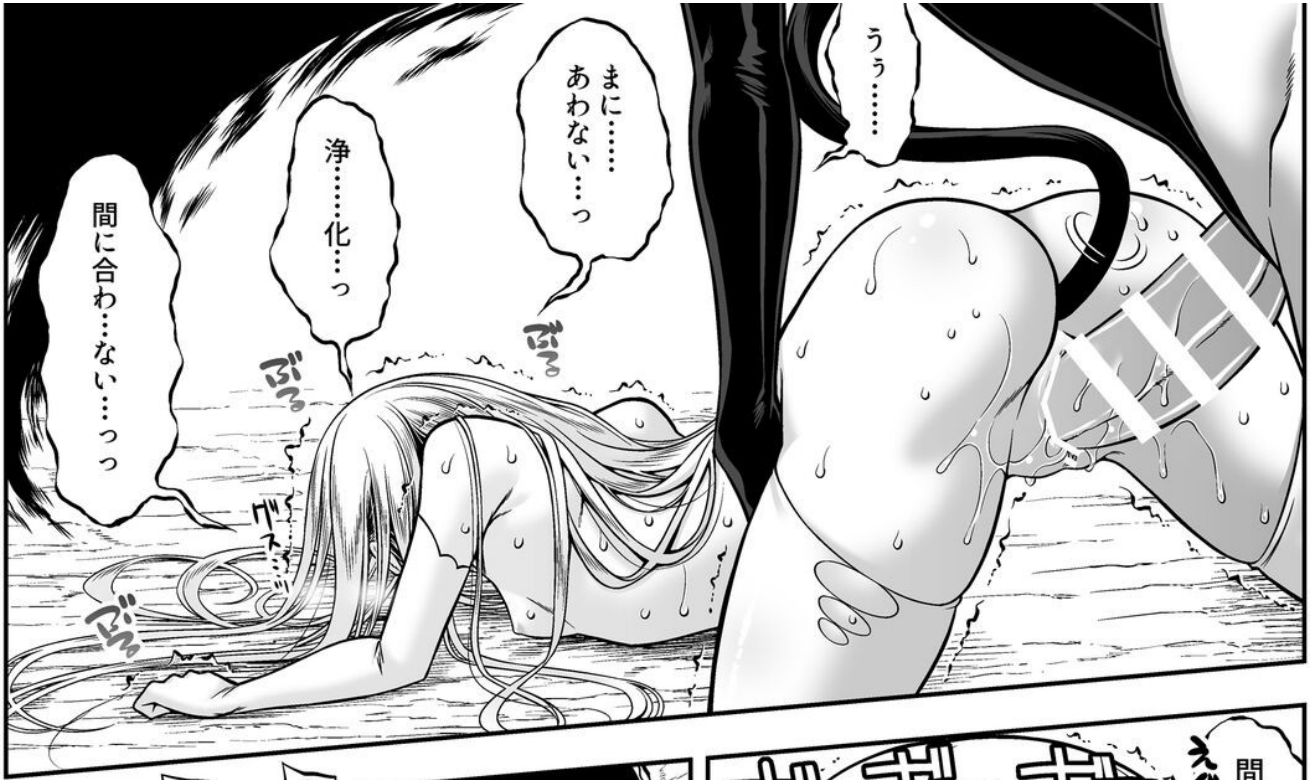
ガキ

ガキ

ガキ

ガキ

はあ



間に合わない……っ

浄……化……っ

まに……  
あわない……っ

うう……



間に合わないっ……っ

だめよお？  
女神の聖女が  
そんな泣き言  
言っちゃあ

間に合わない……よお……っ

もっと気を強く  
持たなくちゃ  
……ね！



もう無理……  
もう間に  
合わないよお……  
無理……ムリ……っ

あらあら  
すっかり弱気にな  
っちゃって……  
女神様にでも  
救ってもらったら？

おっ  
お救いください  
女神様……っ

めがみ  
ごまああっ



どうお?

女神様には  
助けてもらえそう?

う...  
うう...  
うう...  
ぐすっ

ダメそう  
なのお?  
残念ねえ

っ

自らの信徒が  
こんなに困って  
苦しんでいるのに  
助けてもらえない  
なんて

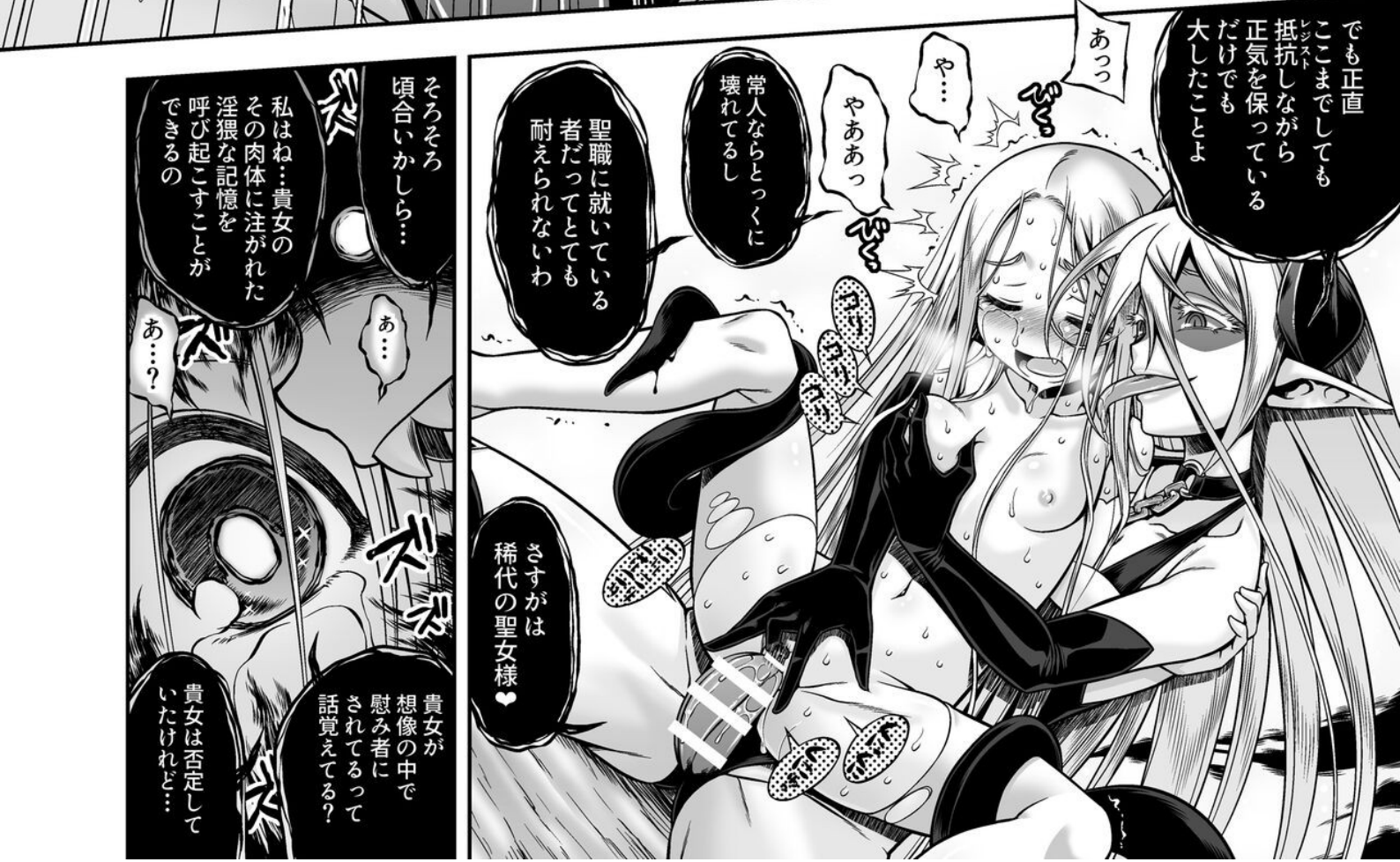
はっ

あ

この程度の試練は  
自力で乗り越えなくちゃ  
いけないって  
ことかしらね?

ああ...っ

女神様...



でも正直  
ここまでしても  
抵抗しながら  
正気を保っている  
だけでも  
大したことよ

あっ

や...

やあ...  
やあ...  
やあ...

常人ならとくに  
壊れてるし

聖職に就いている  
者だとしても  
耐えられないわ

さすがは  
稀代の聖女様♡

そろそろ  
頃合いかしら...

私はね...貴女の  
その肉体に注がれた  
淫狼な記憶を  
呼び起こすことが  
できるの

貴女が  
想像の中で  
慰み者に  
されてるって  
話覚えてる?

貴女は否定して  
いたけれど...

あ...

あ...

あ...?

その肢体に注がれた  
欲望にまみれた視線がどんな  
だったか…  
貴女にも観せてあげる…♡

抵抗しなと…

『のまはは術』

ははははは



飲まれ…



さあ 御覽なさい



欲望に満ちた  
男たちの情動を



ふふ…  
だいふ慣れてきた  
ようだね

え…  
この…声…



神官長…  
様…?!

さあ  
準備は  
いいようだ

さあ  
準備は  
いいようだ

は…は…

おねがいします…



嘘…

はしたない  
娘だ

あ...♡  
あ

あつあつ  
神官長様の中の  
貴女は  
従順な上に相当な  
好き者なのね

神官長様...♡

しんか...んちよ...  
さまあ...♡

声...でちゃ...て  
ごめ...さ...

ん

こえっ

が...ま

いやらしい声が  
漏れているよ

ご...ごめ...なごの

う...嘘...っ  
嘘ですこんなの  
まやかしです...っ

...はっ  
くっ

我慢することはないさ  
可愛らしい声を  
もっと聞かせて  
おくれ

あ

神官長様っ

それにしても  
神官長様はだいたい  
幼い頃から貴女に  
劣情を抱いて  
いたようねえ

いい趣味して  
うっしやるわね

あ

あ

しんかんちよう  
さまあっ♡♡

神官長様は  
そんなお方じゃない...  
侮辱しないでっ

あらあら  
善がっちゃんって  
なっちゃんての  
貴女ののせいのか

さあ私の愛を  
受け止めなさい

どうでしたか？  
気持ちよかったですか？

はは…  
はい…

あーん♡♡♡

あ♡

あ♡♡♡♡♡

嘘…嘘…

いいですよ聖女様…  
教えた通り  
そのまま舌を絡めて…

まあ…生徒を  
手荒に扱う教育係ね  
彼は貴女にこんな  
乱暴を働きたかった  
ようねえ

うひゃん♡

うひゃん♡

これも教育熱心とでも  
いうのかしらね？

さあもっと奥まで  
啜え込むんです

うひゃん♡

こんなの…  
嘘です…

んんん♡

うそ…

んう…

ぶぶぶ

んお…お

おやおや  
すいぶんと  
乱暴なこと  
相手は聖女様だと  
いうのに

とても信者のふるまいとは  
思えないわね

こ…こんな…ものを  
いくら観せられても  
惑わされません…

すべて…全て  
私を陥れるための  
作り物です…っ

礼拝も  
責女のことを  
視姦するために  
通っていたんでは  
なくて？

ふふっ

それじゃあ…

やああっ

やめ

これは  
誰の視線の記憶  
だろ思っ？

どうか  
やめて  
くださいっ

あっ

人が親切に  
魔族がいると  
教えてやっているのに  
わからん小娘だな

年長者の言うことを  
素直に聞けるように  
身体で躡けてやる！

魔族に殺される  
くらいなら  
俺が女の悦びを  
教えてやるっ

俺の子を産め！  
女神の子を！

おやめ  
おやめ  
おやめ

あはははっ  
業の深い人のようね  
簾の村の長は  
少し前に会った  
ばかりでしょう？  
よく思い出して  
御覧なさいな

おやめ  
おやめ  
おやめ

う……そ……

どんな目をして  
貴女のことを  
舐っていたか

うそ……

うそ……だ……  
うそ……よお……っ

フフ……ッ  
精神もそろそろ  
限界かしら……

残念だけれど  
全部本当……

私が貴女の幼い頃や  
その周囲の人の  
ことなんて  
知っているわけ  
ないでしょう？

あれは全て  
貴女の身体が  
記憶している  
貴女に注がれた  
欲望……♡

彼らの妄想で貴女が  
どんな快感を得ていたのか…  
体験させてあげる

今観せた  
全員分の快感を  
一気に…ね♡

あ……

さあ……

善がりなさい

う……





あ  
あ  
あ

あ  
あ

あはっ

パネ仕掛けの  
おもちゃ  
みたくい

あ  
あ

あん無駄無駄

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ

どんなに  
身を振ったって  
快感からは  
逃れられないわ  
おとなしく全身で  
受け止めなさい

あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ





駄目でしょお？  
魔族なんか  
お願いしてちゃあ

助けを乞うなら  
愛しの女神様になさい

めが…み…  
さ…ま…っ

女神…さ…ま…  
お救い…  
くださ…っ

お救い…  
くださ…っ

私…では…  
この魔族に勝てません…  
どうか…っ

どうか…

どうか…  
おだすげ…  
くださ…

お

お

お

め…

どお？  
そろそろ救って  
貰えそ…？

めが…み…  
さ…ま…っ

めがみ…  
さ…ま…あ…っ





これで三つの穴から注がれちゃったわね

膣とお尻と



なかなか救けてもらえないわねえ可哀想お

早くしないと全身に媚毒が回ってしまうのこね



そろそろ手遅れになっちゃうわよお...



おいし



女神様っ

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい

めいめい



ほらほらもっと  
必死にお願い  
しなくっちゃ

あははっ



そんな  
嬌声混じりの祈りじゃ  
届かないのかしら…

ね!



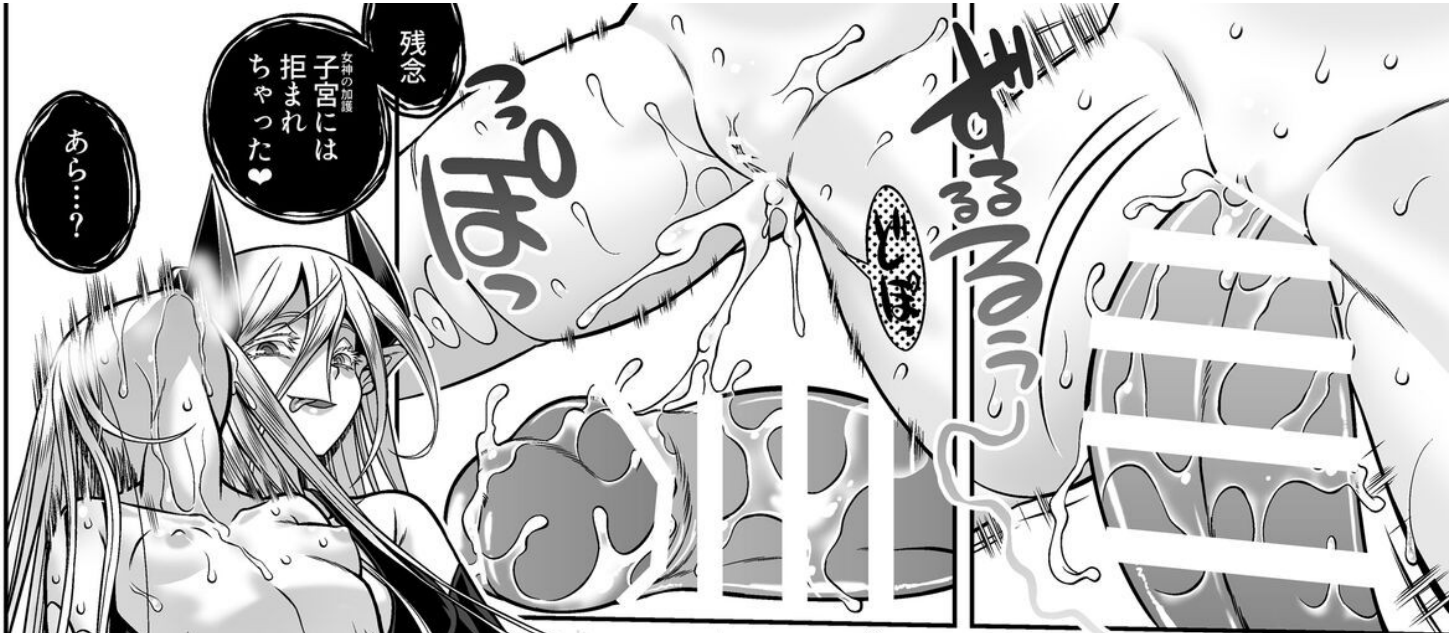
あら嬉しい

貴女の方から  
私の胸に  
飛び込んできて  
くれるなんて♡









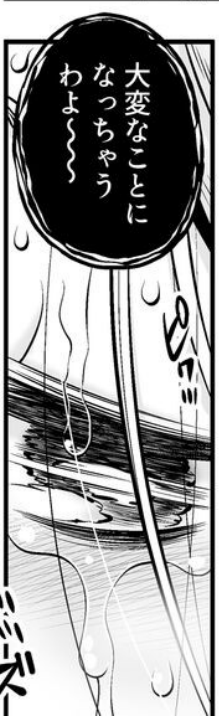
女神の加護  
子宮には  
拒まれ  
ちゃった♡

残念

あら…?



あらら  
意識  
トんじゃった  
かしら？



大変なことこ  
なっちゃら  
わよ〜



魔族相手に  
そんな油断した姿  
みせてたら



駄目でしょう？



脱水起こし  
ちやわないように  
たっぷり飲ませて  
あげなくっちゃね♪

さあて  
それじゃあ  
人がするような  
普通のセックスは  
もう終わりにして

ここからは



わたし  
淫魔としか味わえない  
快楽の世界へ  
連れて行ってあげるわね



淫魔汁  
全身に染み込ませて  
一生取れなくして  
あげる♡

軽く布が擦れるだけで  
発情できる身体に  
してあげるわ…♡

お尻にも  
たっぷり注いであげるから  
今度はしっかり  
受け取ってね♡



また失神？





お…お股…  
じゅぶじゅぶされる…  
の…と…突起…を…  
こすられる…のっ

お…お尻…  
お尻…ほじられる…  
の…

耳…しゃぶられる…  
の…も…  
うな…じ…舐め…られる…  
のもっ

おへそ…ぐりぐり  
される…のも…っ

胸…ちゅっ  
ちゅ…び…弄られる  
のも…脇…  
撫でられる…のも  
二の腕…も…

ゆ…指…の間這われるのも…  
ふともも…撫でられるの…も…  
ぜ…全部…っ  
全部気持ちいい…ですっ  
う…う…っ

いっぱい  
感じてくれた  
みたいで  
嬉しいわあ

いいわ  
可愛い聖女様の  
お願い  
聞いてあげる

あは♡

素直に  
なったわね

は…  
せえっ  
う…  
う…







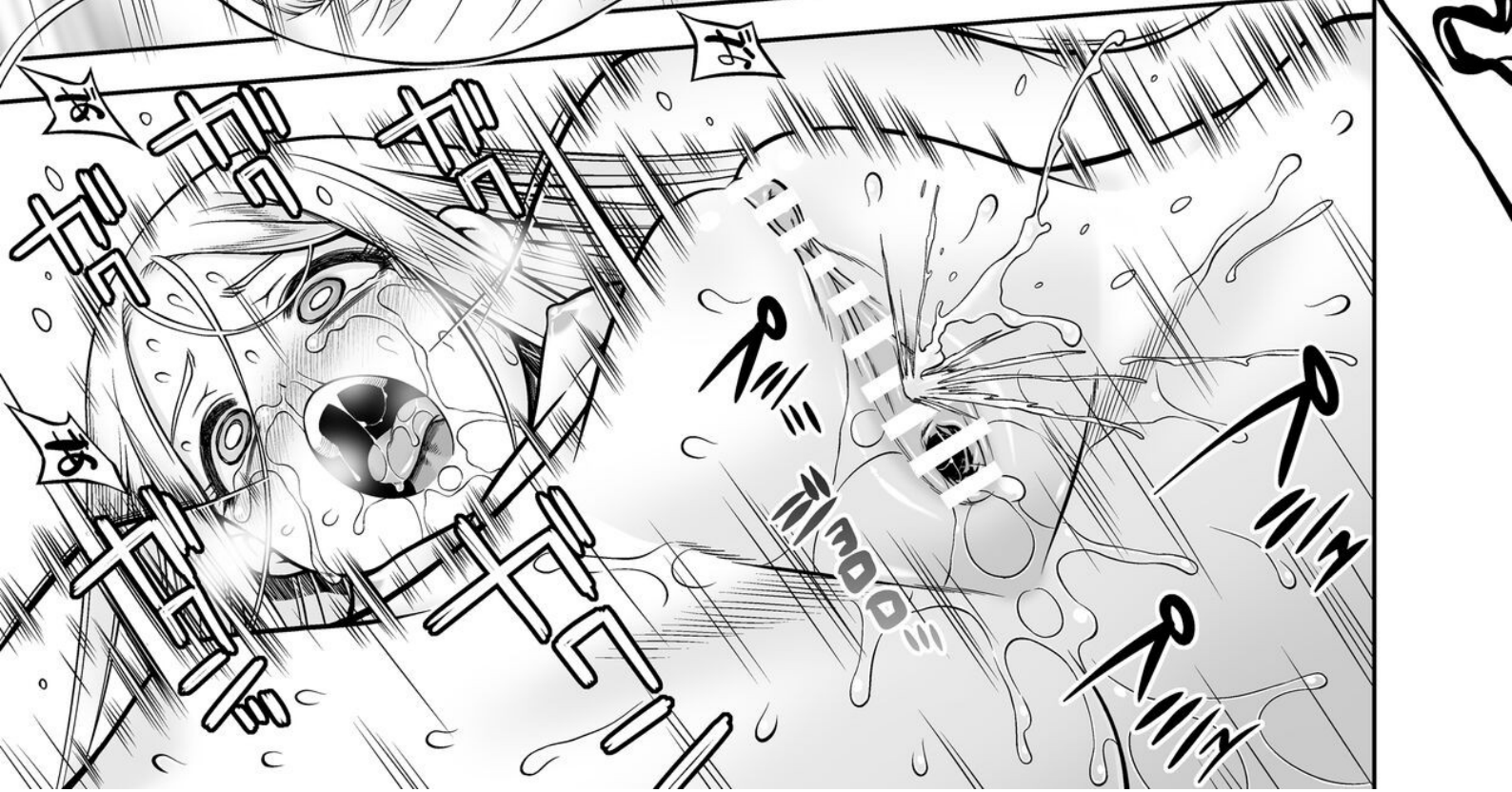






あははっ  
また潮吹いちゃってる

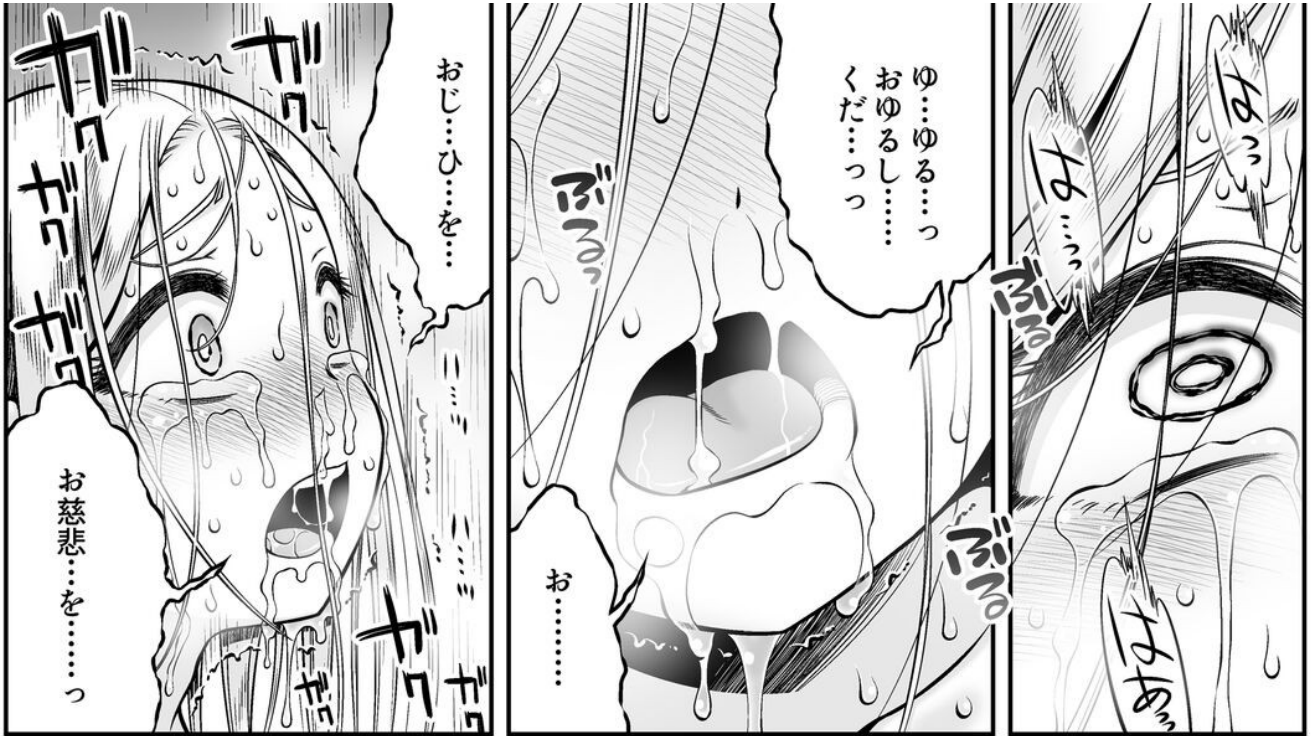
癖に  
なっちゃうわよお？

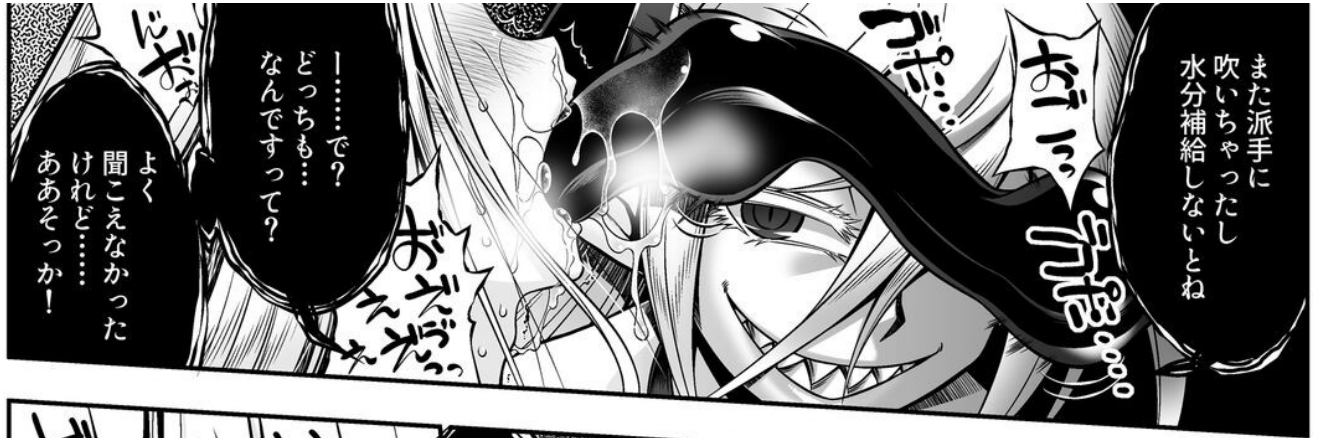


あははっ  
また潮吹いちゃってる

あははっ  
また潮吹いちゃってる







また派手に  
吹いちゃったし  
水分補給しないとね

どっちも  
ほじろってことね

ー……でっ  
どっちも……  
なんですって？

よく  
聞こえなかった  
けれど……  
ああそっか！



どっちも  
ほじろってことね

!!!



欲張りな聖女様ね  
それじゃあ……

どっちも  
ほじろってことね

どっちも  
ほじろってことね

どっちも  
ほじろってことね



たあっぷり  
召し上がれ





又平お

可愛らしい  
イキ顔見せて……♡

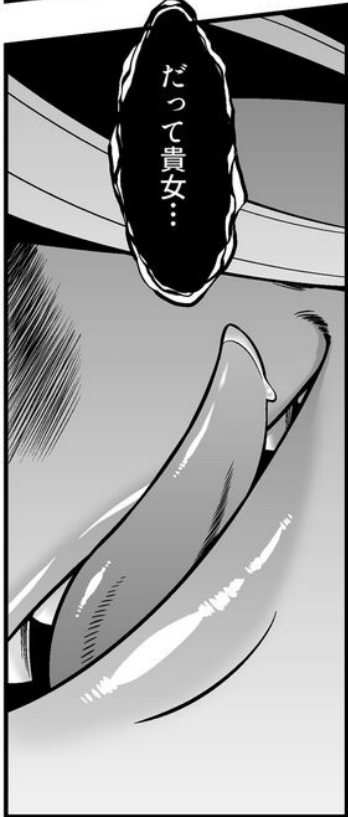
あっは♡

だらしない表情  
かお♡

ん……

ん……





だって貴女…

いっそ簡単に  
堕ちてしまったり  
気が狂えれば  
楽だったのにな

本当に可哀想…



純潔の聖女様が  
こんな姿に  
なっちゃって…

わたし  
淫魔に

気に入られ  
ちゃったもの……♡

愉しみね……

目を覚ましたら  
今度はどうやって  
虐めてあげようかしら……♡





## あとがき

エッチな本でははじめてのオリジナルでこんにちは。エッチな本ではと前置きをする以上健全なものでは実は描いたことがあるのです。かつては少年創作をやっていたんですよ。本当です。信じてください。

ごちゃごちゃ描いていたら入り切らず削った展開もあるのに過去に描いたものでも最長のページ数になってしまいました。描き始めと描き終わりで一年以上の開きがある上に後になって描き直したコマなどもちらほらあり、絵柄が微妙に違うとか安定しないとかあったらすみません。アホみたいに時間がかかっている割にはクオリティは普段とあまり変わらない悲しさ。時間さえかければ誰にでも傑作が描けるというのはやはりデマでした。ちくしょう。

まだまだマスクが手放せない情勢が続きますが皆様が健康にシコシコライフを過ごせますように。この作品がその一助となれば幸いです。

- 誌名 : 淫魔と聖女
- 発行 : かぜうま
- 発行者 : 南☆
- 発行日 : 2022年11月13日
- 連絡 : isogai@big.or.jp
- 印刷 : サングループ

※未成年者の所持閲覧を固く禁じます  
※無断転載・複製、  
ネット上へのアップロードを禁じます